

日本医療政策機構代表理事

東京大学名誉教授

黒川 清\* 先生 推薦 Dr.青木 眞 web「感染症講義」2009年スタート

医療制度は多くの問題を抱え、大きな岐路に立たされている。過剰な設備投資と過小な人材配置、偏差値秀才ばかりが集まる教育制度、肩書き重視で閉鎖的な医局支配が隠然と残る風土など、重大な課題ばかりである。卒後研修の義務化で医学生たちの考え方が確実に変化してきている、診療能力も確実に上昇している。グローバル化と情報化がその流れを押し進めている。学生たちの間では、インターネット上のメーリングリストやブログを通じて、「精度の高い確実な情報」が行き交っている。青木眞先生は、いくつもの病院を訪ねては回診を行い、臨床教育にかかわり、若い医師を育て、励ましている。先生の影響を受けて感染症へキャリアを目指す医師も増えている。それは先生が本物のすばらしい教育者であり、若い医師たちへの身近なロールモデルとなっているからである。沖縄県立中部病院でアメリカ流の臨床研修を徹底して叩き込まれ、自身もアメリカで研鑽を重ね、米国内科専門医・感染症専門医として、日本に新しい風を吹き込んでいる。

今般、その青木眞先生が、「感染症診療講義」をネット上で展開する。劣悪な労働環境の中、院外研修にも十分な時間と費用をかけられない医療従事者が、高い志をもって学ぶすべとして福音となろう。PBL (Problem oriented learning) にして、ゆくゆくはケーススタディをベースにした医学教育に一石を投じる先駆けとして期待したい。この web 展開を青木眞先生と協同作業するキューラメディクスの宮本 巖氏は、元々は国際金融マンである。ほんの10年前まで、日本には「護送船団方式」という規制に守られた銀行が存在していた。そんな閉鎖的な日本を「市民」の立場で変革したいとの一途な思いが青木眞先生との出会いとなったと聞いた。「市民」が主体的に医療政策形成に関っていくことが成熟した市民社会形成には必須である。健闘を祈りたい。

この新しい企画、試みに大いに期待したい。

\* 黒川 清 <http://www.kiyoshikurokawa.com/about.html>